

令和8年7月発行
(TEL/FAX:46-5881)

6月の教育・保育力向上研修会では、巡回相談や「ことばと心の相談室」などで大変お世話になっている、田中智香子先生と有木明子先生にご講義いただきました。

〈6月3日(水)教育・保育力向上研修会〉 ことばの発達と支援の実際について ～ことばの育ちを支える保育～

講師：言語聴覚士、公認心理師 田中智香子氏

先生方が現場で感じている“ことば”に関して気になっていることを専門的な視点から丁寧にひもといていただきました。耳の聞こえや音をつくり出す唇や舌などの動き、子どもを観察するポイントやことばの育ちを支える関わりなど、具体的にわかりやすくご教授いただきました。

【ことばを観察するポイント】

- 耳が聞こえているか。
- よく声をだしているか。
- 声や動きをまねするか。
- 大人に相手をしてもらいたがるか。
- こちらの言うことがわかっているか。

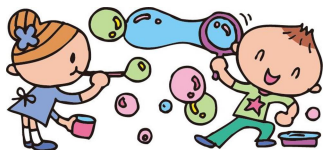
ことばの問題を考えるとき
の大前提は**耳の聞こえ**

【日常生活の中の動作や遊び】

- スプーンで取り込む(「あ～む」と唇を合わせる)
- うがい(ぶくぶく・がらがら)
- 吹き戻し
- らっば・しゃぼん玉
- かいじゅうごっこ(「がお～!」と声を出す)



など



*会話は「1に**楽しさ**、2に**中身**」です。

*発音の間違ひは指摘しないのが原則です。その子の「今」に合わせて、大人が自然な会話の流れで正しい発音で繰り返しましょう。

子ども「いちどたべた!」



大人「いちご食べたね!」

*日常生活の中の動作や遊びの中で、**子どもと一緒に楽しみながら**ことばを育てていきましょう。

言葉のリズムを手拍子で表す遊びや、しりとり、じゃんけんグリコなど、言葉の音に注目する力を**遊びの中で自然に育てましょう**。この力が、やがて読み書きの土台となります。



〈6月26日(金)教育・保育力向上研修会〉
「子どもの困った」をどう考える？
～解決志向アプローチを使って事例検討にチャレンジPart2～
講師：公認心理師 有木明子氏

昨年度、大変好評だった「解決志向アプローチ」についてお話いただき、今年度は一歩進んで、4人組に分かれて事例検討を中心に研修を行いました。参加された先生方が、子どものよさやできていることに目を向けて、笑顔でポジティブに語り合っておられる姿が大変嬉しく、こちらもパワーをいただきました。

【ご参加の先生方より】

- ★ついつい「なんでせんと?」と言ってしまうのですが、その声かけをポジティブに少し変えてみるだけでももっと子どもたちに寄り添った関わりができるなと思いました。
- ★一人ではなくみんなで考えを持ち寄り受入れ合ったことで、「これでいいんだ」という気持ちをもつことができました。
- ★解決志向の考え方、とてもいいなと思いました。子どもの「できないこと」に注目し原因を追及するのではなく、解決するためには「何がうまくいっているか」ポジティブな視点で考えることで、子どもへの声かけも変わってくるのだと感じました。

【ネガポジ変換】

ネガティブ	→	ポジティブ
・走らないで		・歩きます
・うるさいよ		・アリさんの声で話して
・まだ散らかっているよ		・宝物がたくさん落ちてるよ など

こうしたら?と思うとき…

- ①できていることを言葉にする。
- ②偶然にできた瞬間を言葉で褒める。
- ③やっているかのように声をかける。
- ④目の前でやってみせる。

「教えんば!」から
「一緒に考えてみようか」へ



※参考：令和8年6月26日 大村市教育・保育力向上研修会
有木明子氏（公認心理師）による講義より

教育・保育力向上研修会には毎年多くの先生方にご参加いただき、一緒に学び合えますことを大変ありがたく思っております。

昨年度は、大村市療育支援センターステップのご協力を得て実施した見学実習（先着10名）を含め、計15回の研修会を開催し、延べ856名の先生方にご参加いただきました。

今年度は残り12回を予定しております。次々とご案内を差し上げる月もございますのでお忙しい中恐縮ですが、日程や内容、締め切り日などをご確認のうえお申込みください。また、欠席の際には必ずご連絡いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、どうぞお気軽にお知らせください。



大村市幼児教育・保育支援センター いっぱ
〒856-0832
大村市本町 413 番地 2 (大村市こどもセンター2階)
TEL/FAX: 0957-46-5881
Email: youkyou@city.omura.nagasaki.jp